

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672200120
法人名	有限会社 敬徳
事業所名	グループホーム かいもん
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町1330番地1 (電話) 0993-27-2110
自己評価作成日	平成23年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

<http://kaken-shakyo.jp/kohyo>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人様の残存能力を活かした作業を、本人の役割として自信を持って、して頂くことを基本としているが、家庭的な雰囲気を損なわないように笑顔で過ごせる環境作りに努力している。

「今日も笑って過ごしましょう」を合言葉に一日の生活が始まり、利用者様が孤立することがないように常にスタッフが声掛けをしていて、自由に過ごされている。

利用者と家族の関係が壊れてしまっている時があり、面会を拒否している家族のために、会える喜びを少しでも味わっていただけるように、両者の橋渡しをして安心していただいている。

少しでも、利用者、家族のお役に立てたらという思いで、スタッフ一同、試行錯誤を重ねながら支援をしている。

このホームの周りには、有料老人ホームや高齢者アパート・障害者グループホームが併設されているため、それらの利用者との交流があり馴染みが深い。

近隣に大型スーパーや病院・派出所・神社・小中学校があり、生活環境や自然環境に恵まれた場所に立地している。

職員の意見やアイディアを多く取り入れて実践している。

職員の研鑽意欲が高く、その支援体制も充実しているため、職員の離職がなく、馴染みの関係が保たれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	全職員で考えまとめた理念であり、ホームの目につく所に掲示している。朝礼時には唱和し、端職員が把握し、日々の介護に繋がるよう、意識付けをしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を開設時に作成し、職員で見直しを行い、わかりやすい文言にした。玄関やホール等に掲示し、職員は朝礼時に理念の唱和を行い、会議時には理念を確認し合い、日々のケアに活かしている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	東開聞地区の会員として、地域の情報を得ておらず、地区的行事には出来る限り利用者と共に参加している。	自治会に加入し、ほぜ祭りや運動会・神社祭り・文化祭等の地域の行事に利用者と共に参加している。また、小中学生の体験学習の受け入れや、ホーム行事に地区住民のボランティア訪問もあり、地域の人々との交流が行われている。
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域からの要望や歩み寄り殆んど無く、時間的にも難しいところがあるが、機会があれば応じる姿勢は持っている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域住民の参加があり、情報交換、相談、又、事業所の現況を報告している。意見については、雑談で終わっていることが多い、今後は努力していきたい。	行政職員や地区住民・利用者・家族等の参加で、定期的に開催している。災害注意報や重度化等の利用者への対応方法など、貴重なアドバイスや意見が出され、それを運営に反映しサービスの質向上に活かしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市職員担当者とは、日頃より分からぬ事など気軽に相談しやすい状況であり、協力関係を築くように努力している。	日頃から、ホームの運営やサービスについて相談している。また、運営推進会議時や季刊誌などで、利用者の暮らしづくりを報告し、助言等をもらい、共に質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設以来、身体拘束は一切しないよう管理者より指導があり、ホーム内にも具体的な行為のマニュアルが掲示してある為、各自がいつでも確認出来る情況にある。全職員が、玄関の施錠を含め、身体拘束を一切しないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会の設置やマニュアルがある。勉強会の開催や申し送り時に意見交換や振り返りをしながら、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関施錠はしていない。職員の見守りなどで工夫をこらしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	開設以来、身体的虐待は見過ごすことなく、あり得ないことがあるが、利用者の変化に注意し、報告し合っている。研修には、機会あるごとに参加し、情報を共有しあっている。特に、言葉の虐待にならないよう注意し、職員会議で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加することで学ぶ機会を持ち、情報を共有している。必要に応じて、市職員担当者を交えて話し合い、支援していくつもりでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に説明し、納得していただいた上で契約を交わしている。解約にかんしては、契約書に反した退去の仕方をされる時もあるが、家族の意向に合わせている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	個人的な要望はあるが、運営に関して意見を頂くことは殆んどない。しかし、アイディア、アドバイス、要望に関しては、一応取り入れる。その後、再度、家族、利用者と話し合い検討している。	ホーム便り送付時や家族の面会時・職員の自宅訪問等の折に要望や意見を聞いている。利用者の眠剤使用についての相談で、家族等と話し合い、本人本位に対応し、意見や要望を運営に反映させている。		
11 7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、職員会議において、意見や提案を聞く機会を設けている。内容によっては検討し、反映させている。	職員会議や申し送り時に、職員の気付きやアイディアを聞いている。また職員の毎月の目標や行動計画・ケアについての報告等の総括表を掲示し、運営に反映させている。資格取得者も数名おり、出勤体制で研修参加者や資格取得希望者に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	努力や実績により、賞与で反映させている。能力に応じ、それぞれに役割を持たせているが、働きやすいように人間関係を第1に考えて、助け合える環境作りを目指している。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員全員がある程度の基準に達するようにと努めているが、研修には交代で参加して職員会議で報告する事を義務付けている。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、グループホームの交流会が有り、困難事例の意見交換をする機会に恵まれ参考になった。今後も交流会が楽しめるように、他施設の訪問なども試み、いいところは取り入れて行きたいと思っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも早く馴染めるように、安心できる環境を作り、毎日関わりながら信頼を得る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しばらくは、こまめに連絡し報告することで安心していただき、気付いた事は早い段階で相談している。来設出来ない場合は、スタッフが訪問する事で信頼関係を築き、要望に応えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人とよく話し合い、理解していただいた上で支援を開始しているが、まず馴染んでいただける事を優先していて、無理をしないように心がけてい		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り、利用者のペースで手伝っていただき、お互いを必要と感じながら支えあってい。普段より、手伝って頂いている事に感謝の言葉をかけながら、本人が役に立っていることを認識出来る様にしている。		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を大切に思っている家族と距離をおきたがっている家族がいるが、後者の場合は、少しでも距離が縮められるように報告をしながら、面会を勧めていて、家族が楽しく笑い会える関係を取り戻していただいている。		
20 8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望があれば、連絡を取ったり面会をして頂いている。ドライブの菜に、自宅のある地域を訪れて喜んで頂いている。個人的に墓参りに行くこともある。	利用者の友達や知人・親戚等の来訪を支援している。希望に応じて墓参りや自宅付近へのドライブ等に出かけたり、併設施設での馴染みの人との交流をして、関係継続の支援が行われている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの利用者がホールに来られ、テレビ視聴や談笑されてることが多く半分の人が、お互いの居室を行き来されている。元気な人が、出来ない人のサポートする姿もよく見られ、支えあいがある。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されると、殆どの関係がきれいでいるが、自宅に戻られた人が、家族と来設し談笑された事はある。行き先によるが、お見舞いに伺うことは多々あり、家族と話すこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と話し合う機会が多い為、一人一人の要望に応えていると思うが、困難な場合は、家族と相談をし検討している。	日々の関わりの中で利用者の言動や表情から察知したり、家族等の言葉から情報を得ている。選択肢を多くして自己決定を重視し、得られた情報は職員で共有し、思いや意向に応えられるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	データーを基に個人別に話しを聴き把握しているが、新情報があれば申し送り用紙に記録し、情報を共有している。ケア会議の際に、全スタッフが把握出来ているか確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	殆どの人がホールで過ごしている事が多く、個人記録に記録する事で、心身状態の異常にも早く対応出来、全職員に申し送ることで把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは、担当者と共に行っており、必要なことは、ケア会議で話し合っている為、介護計画に反映している。	本人や家族等の意向を元に職員でアセスメントやモニタリングを定期的に行い、本人本位の介護計画を作成している。個々の状況を把握した記録が充実しており、現状に即したプランの見直しに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙に気付き欄を取り入れ、様子観察した後の結果を記入する事を義務受けることにより、少しずつ記録が充実してきている為、介護計画の見直しに活かされている。			
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望により、その都度出来得る限り、職員間で話し合い柔軟な支援に取り組んでいる。			
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の大切さを把握し、本人が心身の力を發揮しながら、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。			
30 11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で受診可能な医療機関を希望する家族が多い為、特に強く希望されない場合には、かかりつけ医を変更し24時間受診できるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診・往診を継続して支援している。また、協力医療機関の協力のもと、24時間のバックアップ体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとられた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な場合は、隣接している有料老人ホームの看護師に相談しているが、時には、直接の対応もして頂き、適切な処置ができるよう支援している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	検査後は、病院から相談がある事が多く、なるべく入院しない方法を家族にもお願いしているが、やむを得ない場合には、スタッフが交代で面会に行くように心がけている。			
33 12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在99歳の方が居られ、ペースメーカーをすすめられたが拒否された為、何時どうなる分からない状況があるが、家族との話し合いも済んでいる。常に状況をスタッフ間で話し合い本人が自由に過ごせるよう支援している。ホーム内のチームで取り組んでいるだけである。	重度化や終末期について、家族と医師・職員との話し合いがされている。ホームが支援できる方針の確定はこれからである。	重度化や終末期について、ホームが支援できる方針を定め、家族等や職員が共有することが期待される。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや勉強会は定期的に行っていて、通報、対応の仕方には個人差があるが、いつでもマニュアルを見られるようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来る限り月1で自主避難訓練をしているが、今年より、年2回の防火訓練には、地域の方に参加を呼びかけ協力をお願いする予定である。	消防署協力のもと、年2回昼・夜間想定で避難訓練を実施している。その他、毎月自主訓練を行い、職員の意識向上に努めている。通報装置・火災報知機・連絡網体制が完備されている。食品等の備蓄もある。地域との協力体制が築かれつつある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	人生の大先輩と言うことを念頭に置き、言葉使いや反応を見ながら声掛けの工夫をしている。利用者同士でのやりとりにも注意を払い、対応している。	尊厳に対するケアのあり方を、勉強会や日々の支援の中で行っている。利用者のプライバシーを損ねないように、居室やトイレのノック、声かけに配慮している。排泄や入浴介助は同性介助に努めている。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	全員が「NO」と望まない事に答えることが出来るが、「YES」に関しては周囲にあわせる事が多いように思う。自己決定は、全員可能であり、出来るよう誘導している。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	殆どの人が自分のペースを掴んでおり、時間になったら自分で移動されているが、何をして良いのか分からず、ボーとしている事が多く指示を待つてくれる。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	毎日お化粧をする方もおられるが、スタッフがマニキュアや口紅を塗ったりすることもある。散髪に関しては、定期的に行っている。		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜を取り入れた食事作りをしているが、山菜を取りに行き下ごしらえは皆で行うことで季節を感じていただいている。片付けは7人が交代でスタッフと共にに行ってている。	利用者の身体状況に合わせた食事形態に配慮し、季節の食材を使い献立も工夫している。また、食事の下ごしらえや片付け等、職員と一緒にを行い、食事を楽しめるように取組んでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	色とりどりの食事を完食する事で栄養のバランスを摂っており、水分は1日8回に分けてコップ1杯ずつは飲むように誘導している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、誘導しスタッフの見守りのもと行っているが、困難な人のみ介助により口腔ケアを行っている。日曜日には全員ポリデントで洗浄していて、問題があれば、歯科医に往診して頂き、処置している。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全員が自分で尿意を感じてトイレを利用しているが、失敗のないように声掛けで対応している。	排泄記録により、パターンを把握し誘導に心がけている。オムツ使用者も昼間はリハビリパンツを使用し、さりげない誘導や着替えに努めることにより、自立支援の効果をあげている。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしており、各自の排泄パターンを概ね把握している。夏場は、寒天、ゼリー、ヨーグルトのデザートを増やし、冬場は、さつまいもの使用が多い。調理担当者と利用者が話し合いで、当日のおやつで作ることが多く、喜ばれている。		
45 17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまはずに、個々に応じた入浴の支援している	概ね曜日を決めているが、体調を重視している。曜日に関係なく、希望があればいつでも入浴出来る体制にある。	週3回の入浴日を決めているが、本人の希望や身体状況に合わせて、それぞれの入浴支援を行っている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の要望によるが、基本的に自由にして頂いている。今年は湯たんぽを入れて喜ばれている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の間違いが無いように、繰り返し本人と薬の確認を行っており、服薬確認、見守りを徹底している。服薬後の変化にも注意し支援している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業については、概ね役割がきまつていて毎日実践されている。季節事の行事も全員で参加することを楽しみにしており、定期的なドライブで気分転換をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブや個人の買い物など、要望により支援している。お天気の良い日は敷地内のお散歩や神社参りに出かけるが、中庭やサンデッキでの日光浴は、毎日のようにに行っている。	日常的には、散歩やサンデッキでの日光浴を行い、ドライブや花見・遠足・ソーメン流し・神社詣・買い物・墓参り等、本人の希望を聞きながら、外出の機会作りを工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお財布を所持している人が1名いるが、自分で管理されている。月に1度は自宅に戻られる為、中味については、息子様にお願いしている。又、買い物にスタッフと共に行き、お金を預け、支払っていただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手髪がきても返事を書きたいという要望はないが、電話をしたいと要望があれば、取り次いでいて、自由に話していただいている。様子を見て、こちらから連絡し状況を伝えた上で、取り次ぐ場合もある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して、笑顔で過ごせる環境作りを目指している。季節の花を共に植えたり、ホールに飾ったり、目に付く壁などに季節感がでるように工夫している。ホールが居心地が良いように、温度や湿度にも気をつけており、食事中は音楽が聞えるようにしている。	採光や換気・温湿度・音に配慮がされ、清潔である。広いデッキやホールのソファーでゆっくりと過ごしている。廊下の壁には、行事毎の写真や季節の装飾が掲示され、落ち着きのある共用空間である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	各自、座る場所が決まっているが、ソファーにおいても自然と同じ場所に座っておられる事が多く、中庭に出て日向ぼっこを楽しんだり、おしゃべりしたり自由に過ごしておられる。		
53		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員が家族と相談の上、必要な物、馴染みのあるものを用意されていて自分の部屋と言うことを理解されている。配置については、身体的な事に重点を置き、本人と相談して決めている。	テレビ・冷蔵庫・寝具類・ぬいぐるみ・お気に入りの洋服・茶具セット・多種の鉢植え等、馴染みの物が持ち込まれて、それぞれ居心地のよい居室作りである。	
54	20	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	造りがバリアフリー、手すりがある為安全であるが、迷わないように矢印で方向を示したり工夫をしている。		
55					

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		1 大いに増えている
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない